

青丘文庫研究会 月報

No.271

2013年12月1日

青丘文庫研究会 〒657-0064 神戸市灘区山田町3-1-1 (財)神戸学生青年センター内
 TEL 078-851-2760 FAX 078-821-5878 <http://ksyc.jp/sb/> e-mail hida@ksyc.jp
 ①在日朝鮮人運動史研究会関西支部 (代表・飛田雄一)
 ②朝鮮近現代史研究会 (代表・水野直樹)
 郵便振替<00970-0-68837 青丘文庫月報>年間購読料3000円
 ※他に、青丘文庫に寄付する図書を購入費として2000円/年をお願いします。

<巻頭エッセイ>

現代版の「三猿」法案

中川健一

「国の安全確保」の名のもとに民主主義、とりわけ「知る権利」の根幹を揺るがす「特定秘密保護法」が、あっという間に成立しかねない動きだ。この法案は、世論の強い反対で阻止された「スパイ防止法案」の焼き直しだ。安倍政権は「スパイ防止法案」の失敗を繰り返さないため、今回は野党やマスコミの一部を抱き込むなど周到に外堀を埋めてきた。マスコミ業界団体「日本新聞協会」も「スパイ防止法案」や民主党政権の「秘密保全法制」のときは反対声明を出したが、今回は足並みがそろわず「危惧」意見書にトーンダウンしたようだ。

今回の法案の危険性は多岐にわたる。法案と酷似している戦前の軍機保護法でどんなことが起きたのか、例を少し挙げると――。

兵庫県で戦前、『神戸新聞』と並ぶ有力紙だった『神戸又新(ゆうしん)日報』が「神戸鳥瞰(ちょうかん)図」を莫大な費用と4年の歳月をかけて完成した。この図は神戸市内の会社、工場、銀行、商店、官公所などを、鳥が空から見たように一軒一軒細かく描き、主な建物に広告主名を入れる予定で、軍関係施設などは「煙」でぼかすなどして軍の検閲をパスした。ところが1938年に発行する段になって、軍は発行不許可とし全面廃棄を命じたため、『鳥瞰図』企画の成功に社運をかけていた同紙は経営が破綻、翌年廃刊に追い込まれた。

1939年、大阪砲兵工廠の禁野弾薬倉庫で起きた類の大爆発火災は、死傷者約700人に上った。しかし軍は「爆発で多少の被害が出た」とだけ発表。各新聞社に号外発行、原因記載、貯蔵火薬の種類・数量、軍当局発表以外の被害状況などを一切禁じたため、未曾有の大惨事もほとんど報道されなかった。

徳川家康をまつる日光東照宮に3匹のサルの彫刻がある。この「見ざる、聞かざる、言わざる」の秘密政策こそが、徳川幕府が300年余りも続いた秘訣のひとつだという。現代版の「三猿法」特定秘密保護法を許さない運動を強めたい。



第351回在日朝鮮人運動史研究会関西部会（2013年11月10日）

民間連運動について

仲原 良二



1970年8月、朴鐘碩氏が外国人を理由に日立製作所ソフトウェアから採用を取消されたことに対し起こした日立就職差別裁判闘争が、1974年6月に勝訴の判決を得た。この間裁判を支援してきた「朴君を囲む会」は裁判の終結とともに解散、「日立闘争の地平を受け継ぐ」ことを趣旨として各地の「朴君を囲む会」に呼びかけ1974年11月に民間連を設立した。日立闘争の地平を受け継ぐとは、日常生活の具体的な民族差別などの問題に取り組むことを通じて自己を確立していくことであり、在日韓国・朝鮮人の立場からいえば、民族差別と同化の克服による民族主体の確立であった。

民間連運動は、全国民間連が1974年から1995年までで、兵庫民間連は1975年7月から始まり、1997年の在日コリアン人権協会、2002年の在日外国人権協会を経て現在に至っている。民間連の主な取り組みは、各地の行政闘争、公務員国籍条項撤廃、外人登録・指紋押捺拒否、補償人権法の制定、地方参政権、地域子ども会活動などであった。

自治体行政闘争は、当初は公営住宅入居、児童手当などの国籍要件撤廃闘争であったが、その後民族差別撤廃総合施策要求へと発展した。しかし、個別具体策から総合施策要求まで伸ばすには、行政自身が「差別行政」であると認めないとなかなか先に進めないが、行政側は、朝鮮人差別はしていない、日本人との差異は国の制度の問題であるなどとして差別行政を認めようとはしない。

一方、差別される側から見れば国の政策は自治体を通して行われるため、自治体は国の差別政策の「下請け」としか見えず、国籍による差別、たとえば実態として何の支障もないのに就職できないとする「公務員国籍条項」は典型的な国民国家による排外措置であり、国籍の違いということで正当化も理論化もできないものがほとんどである。

こうしたなかで民間連は、総合施策を推進するため次のような4原則を打ち出した。①担当部署（交渉窓口を含む）の設置、②庁内連絡会議の常設、③施政（施策）の基本方針の策定、④庁外者による諮問、監察などの委員会設置（市民代表者会議で代替）。これを具体化した兵庫県の場合は、①国際交流課の中に「地域国際化」担当（1993年）、②庁内地域国際化推進会議（1993年）、③地域国際化推進基本方針（1994年）、④県民協成会議（1998年）のそれぞれの設置であった。

交渉過程における行政側の対応のなかに、「朝鮮人から言われるのはわかるが、日本人から言われる筋合いはない」というのがあるが、これは、民族差別をどのように捉えるのかを逆説的に表現したものであり、ここに被差別の側から追究される前に自己批判して民族差別を認識しなかったのかという問題が提起されている。

民間連の3原則の一つは、「在日韓国・朝鮮人と日本人双方の解放にむけて共闘する」ことである。この原則の要点は、双方が闘いのなかから自己のあり方を追究する、並列共闘ではなく互いに批判しあう関係で共闘する、そのうえで立って、民族性とナショナリズムの克服をふまえ、国民国家に対峙する「共生社会の実現」を追究するというものである。言い換えれば、外国人、国民、民族を越えた「人間としての共生社会を目指すことであろう。（堀内稔記）



在日朝鮮人運動史研究会編

『在日朝鮮人運動史研究』 43号 2013.10 B5 211頁 緑蔭書房 2520円
～目次～

戦前期の大阪の朝鮮人と選挙

—4回の総選挙に立候補した李善洪を中心に 塚崎正之

民戦から朝鮮総連へ—路線転換の歩み 尹健次

戦後日本社会における朝鮮人生活保護受給「問題」の形成に関する一考察

—朝連強制解散～朝鮮戦争下における朝鮮人生活保護受給者の動向から 金耿昊

在日コリアン高齢者一世と介護

—特別養護老人ホーム「故郷の家・京都」における介護サービスの現状 西田知床

共に生きるコリアンな街づくり—川崎「おおひん地区」の地域的文脈 橋本みゆき

二〇一三年八月の東京踏査紀行文 鄭喜允

≪資料紹介≫金天海 自伝的記録(草稿) 樋口洋一

会の記録(二〇一二年・九～二〇一三年・七)

※特価2000円で販売します。購入希望者は、下記郵便振替に送料160円とも2160円を送金ください。郵便振替<00970-0-68837 青丘文庫月報>

●神戸学生青年センター・朝鮮史セミナー●

「空色の故郷」アンコール上映会

日時：2014年11月1日(金)

① 14:00 ②16:30 ③19:00

会場：神戸学生青年センター／参加費：1000円

※神戸学生青年センターでは、カザフスタン在住のゲルマン・キム博士との交流から2010年(4.30～5.8)、「中央アジアのコリアンを訪ねる旅」を実施しました。ウズベキスタン、カザフスタンに中央アジアコリアンの足跡を訪ねました。キム博士ご夫妻が案内してくださいました。(飛田雄一「中央アジアのコリアンを訪ねる旅—ウズベキスタン、カザフスタン—」、『むくげ通信』240号、2010.5参照)

●第17回六甲奨学基金古本市／今年16回目となった古本市(2013.3.15～5.15)、寄贈していただいた本は、約90,000冊。売上は4,314,482円となりました。来年の予定：2014年3月15日(土)～5月15日(木)本の回収は、3月1日～31日です。ご協力よろしくお願ひします。

●〈日韓学生フォーラム第29期報告会第30期募集説明会〉

12月14日(土)13時30分～15時 キャンパスプラザ京都2階第2会議室(JR京都駅徒歩5分、ビッグカメラ前)日韓学生フォーラムは、1986年の発足以来、日韓双方の学生による対話を通じ相互理解を目指す国際交流団体です。現在、新規メンバー募集中です！(募集対象：日本国内の大学、大学院、専門学校に通う学生)・URL <https://www.facebook.com/jksf.info/info>

●青丘文庫研究会のご案内●

■朝鮮近現代史研究会はお休みです

■第 290 回朝鮮近現代史研究会

2013年12月8日(日) 午後1～5時

<2本のドキュメンタリー映画の上映です。会場注意!!>

(1) 「世界人民に告ぐ!」1977/日本語/カラー/16mm/92分

朴軍事政権下の在日韓国人政治犯問題を金大中事件を絡めて描く記録映画。

監督・岡本愛彦 撮影・高岩仁 出演・在日韓国人「政治犯」家族関係者

(2) 「金大中事件・告発 —国民法廷の記録—」

1978/日本語/カラー/16mm/約92分(短縮版60分を上映)

金大中事件の告発映画。

総指揮・山本薩夫 構成、監督・橋祐典

※会場 神戸映画資料館 <http://kobe-eiga.net/>

神戸市長田区腕塚町5丁目5番1 アスタくにつか1番館北棟2F 201

TEL 078-754-8039 (FAX 兼) ※会場注意!

※参加費=会場費 1000円

※神戸市立中央図書館耐震補強工事のため12月、1月、2月、3月は青丘文庫を使用できません。12月は神戸映画資料館、1月～3月は神戸学生青年センターで開催します。

【今後の研究会の予定】

■2014年1月以降の予定です。1月12日(日)、在日(高野昭雄)、近現代史(梶居佳広)、2月9日(日)、在日(渡辺さえ)、近現代史(未定)、3月9日(日)、在日(未定)、近現代史(李景珉)。報告希望者は、飛田または水野までご連絡ください。

【月報の巻頭エッセイの予定】

1月号以降は、黒川伊織、砂上昌一、三宅美千子、佐野通夫、吉川絢子、安致源、伊地知紀子、太田修、高正子、坂本悠一、全淑美、足立龍枝、渡辺さえ、池貞姫、張允植、横山篤夫、松田利彦、西村寿美子、玄善允、川口祥子。よろしくお願ひします。締め切りは前月の10日です。

【編集後記】

- ・ 今年秋がないような感じです。みなさまいかがお過ごしでしょうか。研究会の回数が最近まちがっています。今回、訂正しました。でも、以前にも回数飛ばし等がありました……。
- ・ 元町高架下に1947年の建青のポスターが見つかりました。奇跡的です。保存のために検討中です。ポスターの詳細は、飛田雄一『むくげ通信』11月号 <http://ksyc.jp/mukuge/261/hida-motomati.pdf> を参照ください。
- ・ よいお年をお迎えください。 飛田雄一 hida@ksyc.jp